



Close Up YNU 2012

(国大ニュース)

大学との「絆」をより深める、コミュニティマガジン

NEWS

学びと研究をサポートする環境づくりへの取り組み 学内サービス向上を目指して

学生サポート拠点「学生センター」の設置

2012年8月、いよいよ「学生センター」がスタートします。

学生センターは、広大なYNUキャンパスのほぼ中央に設置され、今まで学内のいくつかの建物に分散していた学生に関する機能を集約し、一元的に学生を支援します。また、新たな取り組みとして、学生の「何でも相談室」を新設し、より充実した学生生活を送れるようサポートします。

3F

「入試課」と「キャリア・サポートルーム」。YNUの「入口」と「出口」が同居しました。これから横浜国大を目指す高校生や受験生は、入試情報や入学相談だけでなく、就職状況も聞くことが出来ます。また、在学生には就職情報、就職相談、模擬面接など、様々な就職支援を行います。



2F

「学生支援課」と「教務課」。そして学生の「何でも相談室」。履修や学業だけでなく、日常生活や恋の悩み?まで、何でも相談にのります。「何でも相談室」には相談職員が常駐します。

1F

「保健管理センター」と2階以上へのエントランス。「保健管理センター」は、相談員を増やして、学生の心と体の健康をサポートします。また、エントランスは大学から学生への情報発信基地となります。

★ YNUキャンパス内に保育所がオープン!

2012年4月にYNUキャンパス内、教育文化ホールに向かいに認可保育所として学内保育所「森のルーナ保育園」が開設されました。

「森のルーナ保育園」という名称は緑豊かな本学をイメージして名付けられました。建物のデザインについては、Y-GSA(都市イノベーション学府建築都市文化専攻建築都市デザインコース)の飯田善彦先生のアドバイスにより、本学に合った白色を基調としたものになっています。

この保育所は、学内関係者へのアンケート結果や横浜市、保土ヶ谷区からの待機児童解消のための要請をうけて、女性研究者や大学院生等の教育・研究環境の改善を図り、近隣の待機児童解消の一助となることを目的に、認可保育所として本学キャンパス内に開所されました。

今後は、教育人間科学部の保育学実習や教職課程の学生が児童と接することを経験する場としての活用など、本学の教育・研究活動との連携も進めて行く予定です。

概要

- 【名称】森のルーナ保育園
- 【運営】社会福祉法人 明真会
- 【定員】60名(0才6名、1才8名、2才10名、3・4・5才各12名)
- 【保育時間】基本:8時30分から16時30分
(土曜日は12時30分まで)
- 【その他】時間延長サービス:有り、一時保育:有り、障害児保育:有り



森のルーナ保育園の外観

移動販売車の導入による食環境の充実

2012年4月9日より、YNUキャンパス内で移動販売車が導入され、中央図書館前のメインストリートにおいて、月曜日から金曜日の11:30～15:00に1日3台出店しています。

YNUキャンパス内には、ビュッフェもある大きな食堂から、軽食やコーヒーが楽しめるカフェまで、合計6ヶ所の食堂が点在していますが、移動販売車の導入により、さらに食環境が充実されました。

メニューは日替わりとなっており、以下のURLにて随時更新していますのでご利用される際はご確認ください。

→ www.jmk.ynu.ac.jp/gakugai/shisetsu/1top/information/lunch_menu.pdf

お昼休みには行列ができるほどの人気



本学では、「卓越した『実践的学術の国際拠点』を形成し、それを世界中どこからも見えるようにすることによって、世界に開かれた大学を実現する。」を達成目標として2008年に国際戦略を策定しました。現在、大学の国際化、国際競争力強化を目指して行っている活動の一部をご紹介します。

海外で活躍する同窓生とのネットワーク強化

海外同窓会サイト www.globalalumni.ynu.ac.jp

本学には、日本政府が留学生30万人計画を掲げる以前から多くの留学生が学んでおり、留学生同窓生が世界各地の政財界や教育の現場で活躍しています。また、海外で活躍している日本人同窓生も多くいらっしゃいます。

これらの方々とのネットワークを強化するため、学長をはじめ役員も出席する海外同窓会の開催を通じて交流を深めるとともに、海外同窓会のウェブサイトの作成や、メールマガジンの発行などの活動を行っています。これらの活動は、YNUに対

して変わらぬ愛校心を持っていただくとともに、親日家を増やすことにつながると考えています。更には在學生にとっても、海外で活躍する諸先輩の活躍を見聞きし、交流を持つことが将来に対する大きな目標へとつながっていくと確信しています。



左/釜山(韓国)で開催された韓国同門会 右/ジャカルタ(インドネシア)での同窓会

海外体験、キャンパス内グローバル体験を通じてアウェーで戦える人材育成!

留学生交流支援制度(ショートステイ・ショートビジット)の取組状況 www.ynu.ac.jp/international/support/shortstay/

2012年1月に国際シンポジウム「アウェーで戦える人になれ ー今、あえて留学のすすめー」を開催し、内向き指向と言われている学生達に

留学を含め海外に出て、国際的な視野を広げることの重要性を訴えました。これまで本学の国際活動は、留学生や外国人研究者の受け入れを中心に行ってきま

た。しかし、人々の活動が一層グローバルになり、世界の中の日本をますます意識せざるを得なくなってきている今、日本人、外国人を問わず時代のニーズに対応し、世界をフィールドに活躍できる優れた人材を育成する事が本学の使命であると考えています。その一環として本学では、学生の海外派遣を推進し、自分の目で現地の文化や歴史、生活を体験し、本当に社会で必要とされる知識と創造性豊かでグローバルな感性を身につけてもらおうと、魅力ある学生交流協定締結大学を増やし、独自の派遣留学生のための奨励金の新設や、学生派遣プログラムやインターシップの開発など、様々な取組を推進しています。

留学生交流支援制度(ショートステイ・ショートビジット)の取組状況はタイトル下のURLをご覧ください。

左上/大連理工大学での中国語講座(SV) 右上/フィリピン・マニラ市にて子供達と交流(SV) 左下/中国江南大学の学生と鎌倉見学(SS) 右下/YNU日本語スピーチコンテスト(SS)



学生フォーミュラ世界ランキング第2位の快挙!

YNFPウェブサイト ynfp.jp

ア メリカを発祥とした学生自身がレーシングカーを設計・制作・競技・スポンサー集めを行う「学生版F1」である学生フォーミュラ大会は、現在、世界十数カ国において大会が開催されています。その内の10大会の結果をもとに算出される世界ランキングにおいて、横浜国立大学フォーミュラプロジェクト(YNFP)

が2位に選ばれました。(2012年1月16日現在/世界481校中)

YNFPでは、教員が教え育てるのではなく、学生自らが学び、自主的に行動し、責任を持って取り組むよう指導しており、学生自身の成長が今回の結果を導きました。

今後も、YNFPの活躍にご期待ください。



全日本学生フォーミュラ大会2011年出場の様子



学生が横浜国大生のためのカレンダーアプリを開発

「YNUメモカレ」ダウンロード [☛ \(iTunes Store\) itunes.apple.com/jp/app/ynumemokare/id515234730?mt=8](https://itunes.apple.com/jp/app/ynumemokare/id515234730?mt=8)

急 激に普及が広がっているスマートフォンは、本学でも多くの学生が利用しています。そんな中、本学の学生が横浜国大生のためのアプリケーション(アプリ)を開発しました。その名も「YNUメモカレ」。カレンダーに予定やメモ

を書き込めるアプリで、本学のテスト期間や大学祭の予定がすでに設定されたYNU仕様になっています。

開発者である工学部生産工学科4年石井明紀さんと、同じく生産工学科4年の石橋弦樹さんは、多くの横浜国大生に利用し

てもらい、その反応から更に進化したアプリ開発につなげたいと意気込みを語っていました。

現在は、iPhone向けのためのリリースで、無料でiTunes Storeよりダウンロードできます。

自転車シェアリングシステム「COGOO」実験導入開始!

「COGOO」ウェブサイト cogoo.jp

(コグー)

2 012年4月9日から本学キャンパス内において、リレーションズ株式会社が行っている自転車シェアリングシステム事業「COGOO(コグー)」を実験的に導入開始しました。

「COGOO」は、自転車に電子錠を装着するだけで運用が可能で、従来システムに必要とされた通信端末を電子錠に搭載しないタイプとしては、世界で初めての自

転車シェアリングシステムです。

今回、都市交通計画が専門の都市イノベーション研究院 中村文彦教授が「COGOO」の開発に協力していることから、本学キャンパス内での実験導入が実現しました。

設置個所(ステーション)2ヶ所、10台で利用者を限った形での導入開始となりますが、段階を経て全学的に拡大する予定で、6月には9ヶ所のステーションに合計100



Sガーデン前のCOGOOステーション

台を設置し、利用条件を満たす本学の学生・教職員が利用可能になる予定です。



YNUミュージアム内の様子

YNUミュージアムを開設

YNUミュージアムウェブサイト www.ynu.ac.jp/about/center/museum/

貴重書データベース rarebooks.jmk.ynu.ac.jp

本

学は、源流となる小学校教員養成所の設置から135年以上となる歴史と伝統を積み重ね、今日ま

で多くの教育・研究の成果を社会へ創出してきました。また、時代の変遷の中で、様々な出来事もありました。こうしたことを世に公開し、過去から現在までの本学を示し、さらに未来に向かっての進展を表現していくため「YNUミュージアム」を開設し、2011年12月6日に開設式典を行い

ました。

展示の詳細や開館日程はYNUミュージアムウェブサイトでご紹介しています。また、YNUミュージアム展示の一つである、本学附属図書館所蔵の貴重書データベースをウェブ上でも公開していますので、そちらもぜひご覧ください。

2010年度より附属施設の改組や新設などが行われ、2011年4月には「人間文化課程」を設置するなど、年々進化し続けている教育人間科学部。今回は、そんな教育人間科学部の近年の動きの中から、地域の教育委員会との共同により進行中の中核的理科教員を養成する取り組みと、人間文化課程の小宮正安准教授の研究をご紹介します。

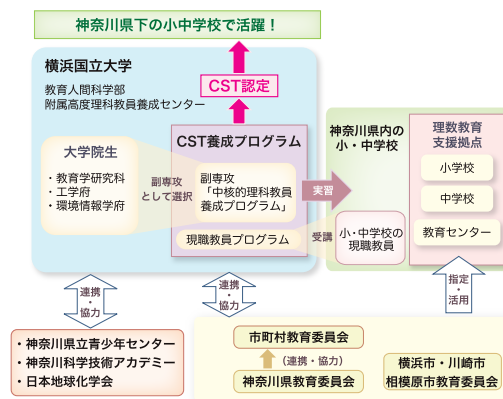
コア・サイエンス・ティーチャー (CST) 養成拠点構築事業

神奈川CSTプランウェブサイト www.cst.ynu.ac.jp

近年、子供たちの理科離れが指摘され、原因や対応策が検討される中で、小・中学校現場や地域における理科教育の中核となるリーディングティーチャーの養成が注目されるようになりました。横浜国立大学では、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育委員会と共同で、科学技術振興機構の支援事業である「理数系教員(コア・サイエンス・ティーチャー)養成拠点構築事業」として「神奈川CSTプラン」を2009年度よりスタートさせました。教育人間科学部に新たに設置した「高度理科教員養成センター」を核として、学内の各部局、教育委員会、学校などとの連携のもと、新しい教員のあり方としてのCSTはどのような存在であるべきかを考えたうえで、CSTスタンダードの作

成と養成プログラムの開発と実施、地域の理数教育支援拠点づくりを進めています。大学院副専攻「中核的理科教員養成プログラム」と神奈川県内の学校教員を対象にした「現職教員CST養成プログラム」を開設し、2012年3月には、30名の現職と2名の大学院生に神奈川CSTの認定証が授与されました。

授与式には、文部科学省初等中等教育局教職員課教員免許企画室 新田室長、神奈川県教育委員会 平出教育委員長、川崎市教育委員会 金井教育長、科学技術振興機構 山末調査役をはじめ多数のご来賓があり、本取り組みへの関心の強さが伺われました。今後の発展にご期待ください。



左/神奈川CSTプラン概念図
上/授与式でCST活動への抱負を語る認定者代表

ヨーロッパ文化の根幹を様々な切り口から迫る

小宮正安 (教育人間科学部准教授)

テレビ番組やガイドブックで「ヨーロッパ」というと、メルヘンチックでお洒落という側面だけが強調されがちですが、それはほんの上澄みのようなもの。その奥にはドロドロしたものが脈打っているのが現実で、逆にいえば水がろ過されるように、そのドロドロを通して美しい一滴が生まれ落ちるともいえます。この「ドロドロ」と「美しい一滴」

を作り出したヨーロッパの社会・政治・民族・文化のダイナミズムについて、音楽や建築、コレクションといった様々な切り口で迫ってゆく…。これが私の研究です。例えば近著では、「オーケストラ」という独自の合奏形態を生みだしたヨーロッパが、そこに自らの夢や理想をどのように投影させていったか、という歴史を追ってみました。

また、私が必ず念頭に置くように心がけているのが、日本の価値観の根底には今なお、明治時代以来ヨーロッパから受けてきた影響が色濃く渦巻いているということ。というわけで私の研究は、ヨーロッパ文化史に関する本や論文を執筆するだけにとどまらず、日本とヨーロッパとが切り結んだ際に何が起きるかという問いを追ってゆくことにもつながっています。その一つの表れとして、京都の狂言ファミリー茂山一門と組んで「狂言風オペラ」なるプロジェクトの脚本を執筆し、その成果を日本国内はもとよりドイツの各地でも発表できたのは、実にスリリングな体験でした。

多様性が混在するヨーロッパのように、研究に対しても狭い領域を超えて積極的に雑食でありたい。それが私の願いです。



左/狂言風オペラ「魔笛」公演より (写真提供:ヴォイスンク)
右/ヨーロッパの文化や思想をオーケストラを切り口に探った近著

Masayasu Komiya
教育人間科学部
准教授
専門はヨーロッパ文化史





創立 60 周年募金募集期間を終えてのお礼とご挨拶

President's Message 学長メッセージ

「実践的学術の国際拠点」としての弾みになりました

2009年、横浜国立大学は新制大学として創立60周年を迎え、同窓会の皆様と共に創立60周年記念事業を開始いたしました。事業は各界、卒業生の方々を迎えた「創立60周年記念式典」から始まり、キャンパス整備、そして募金活動を実施しました。

全事業は2012年3月末日をもって終了いたしました。キャンパス整備は順調に進み、学生たちの勉学の場としてふさわしい環境となってきました。また、募金事業

についても、同窓会・卒業生、企業また学生・保護者、教職員の皆さんの多大なご協力により、当初の目的、国際化への対応に向けた活動の原資となる成果をもたらすことができました。

本学は「実践的学術の国際拠点」を謳っており、教育・研究のグローバル化を進展しているところです。創立60周年の募金事業の成果についても国際化の推進のため、同窓会の皆様のご理解のもと活用させていただく予定としています。

横浜国立大学長

鈴木那雄



創立60年から3年。この間、大学は教職員の努力もあり教育・研究、運営面で、国立大学として上位の社会的評価を得るようになってきました。これもひとえに、皆様のご支援の賜と感謝しています。今後より一層、よろしくお願ひ申し上げます。

各同窓会代表から、感謝のメッセージ

友松会 金子禎会長

本事業にご協力いただきました個人及び法人の方々に厚くお礼申し上げます。有難うございました。募金の目的が①国際交流事業(国際交流基金の充実)として学生の海外留学と外国人留学生への支援。②キャンパス環境整備事業として正門から理工学部へ続くキャンパスのメインストリートの美化整備としています。①については国際港都横浜に位置する大学として是非とも充実した展開をして欲しいところです。②は横浜の名所として観光コースの一つに加えて、市民は勿論、全国から横浜国立を訪れる人々が増えることを願っています。いずれにしても、学生諸君が充実した学生生活を過ごせるように有効財源になることを期待しています。

富丘会 入江昭夫理事長

本事業にあたりましては、会員及び関係する方々のご理解とご協力を賜り、お陰様をもちまして、同窓会ごとの目標金額をクリア出来たことを感謝申し上げます。ただ、企業等の団体への働きかけが、今一歩で

あったことを反省しております。大学の産学連携活動や社会貢献が軌道に乗ってきていることは喜ばしい限りですが、高度成長時代を終えた今、大学と社会との新しい連携のあり方が問われていると感じております。

工学部同窓会連合 井上誠一代表

2年6ヶ月を掛けて行われた記念募金の募集期間終了にあたり、募金にご協力下さった卒業生始め関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。低迷する経済・社会情勢の中、昨年3月には東日本大震災に見舞わ

れ、非常に厳しい募金事業でしたが、一定の成果を収めることができたのは、皆様の大学に対する熱い思いの賜物であり、何ものにも代え難い連携と絆の証左であると思えます。ここにあらためてお礼申し上げます。

全体の募金件数・募金額の集計

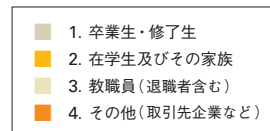
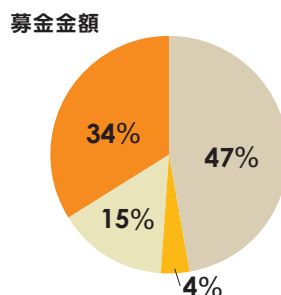
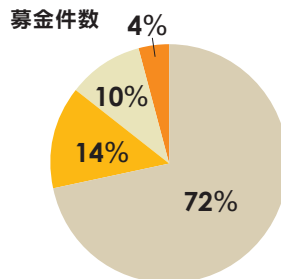
(2009年10月1日-2012年4月30日)

募金件数

所属	合計(件数)
1. 卒業生・修了生	984
2. 在学生及びその家族	191
3. 教職員(退職者含む)	141
4. その他(取引先企業など)	57
合計	1,373

募金額

所属	合計(円)
1. 卒業生・修了生	25,919,000
2. 在学生及びその家族	2,045,000
3. 教職員(退職者含む)	8,205,000
4. その他(取引先企業など)	18,436,000
合計	54,605,000



募金総件数…1,373件/募金総額…54,605,000円

ご協力ありがとうございました。

ご寄付者のうち、公表を承諾いただいた方のご芳名を寄付者芳名録に掲載いたしました。寄付者芳名録は大学ウェブサイト上でも掲載しております。

今後の募金の管理運営につきましては、学内外の委員で構成する横浜国立大学創立60周年記念事業実施委員会にて事業計画や予算・決算などを審議の上、適正に支出します。

支出事業とその金額は大学ウェブサイト上でご報告いたします。

詳しくはこちら

横浜国大ウェブサイト→

創立60周年記念事業→募金事業

www.ynu.ac.jp/about/found/donate.html



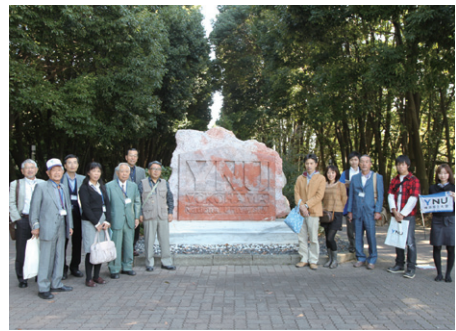
第7回横浜国立大学ホームカミングデー (HCD)のご案内

第

7回ホームカミングデーの開催日が決定しましたのでご案内いたします。

ホームカミングデーは、現在の大学の教育・研究活動や卒業生の活躍の様子を相互に理解し合い、大学と卒業生との絆を強めることを目的に、2006年より年に1回開催しています。

様々な分野で活躍中の卒業生や教員などの講演会をはじめ、キャンパスツアー、留学生の発表、サークル活動紹介などが行なわれ、学生・教職員と卒業生との交流を図る場となっています。一般の方にも開かれたイベントとなっていますので、ご興味のある方は、ぜひYNUキャンパスへお越しください。



第6回ホームカミングデーの様子

第7回横浜国立大学ホームカミングデー詳細

詳しくはこちら ホームカミングデーウェブサイト homecoming.ynu.ac.jp

開催日 2012年10月27日(土)

メイン講演者 宇宙航空研究開発機構(JAXA)名誉教授
はまぎんこども宇宙科学館館長 的川泰宣氏

最新情報は
ウェブサイトで
ご案内します!

TOPICS

Google マップ ストリートビューで本学キャンパスを公開

詳しくはこちら

www.ynu.ac.jp/hus/koho/5475/detail.html



Google マップ ©2012 Google

Google マップ ストリートビューで本学の常盤台キャンパスが公開され、緑豊かなキャンパス内がウェブ上で見られるようになりました。

Google マップのストリートビュー スペシャルコレクションでは、日本をはじめ、世界中の世界遺産、観光名所、行楽地が紹

介されています。

2011年11月2日には、本学以外にも山下公園、大さん橋国際客船ターミナル、赤レンガパーク、ズーラシアなどが新規公開され、横浜の見どころスポットが合計30ヶ所、スペシャルコレクションに加わりました。

卒業生・修了生の皆様へ データ登録のお願い

本学では卒業生との連携を深めることを目的として、卒業生・修了生の方々に連絡先、就職(進学)先等のウェブによるデータ登録をお願いしています。

登録データの使用内容は以下の通りとなります。

- ・大学最新情報案内のメールマガジンの配信(月1回程度)※希望者のみ
- ・本学ウェブサイトや広報誌等の卒業生インタビューのお願い
- ・登録情報を同窓会へ提供 ※許諾者のみ
- ・YNU ネットアドレス(生涯メール)の登録/確認

左記のこと以外の利用および提供は一切いたしません。
また、関係法令及び本学規則等により個人情報として適正に管理し、使用いたします。

本趣旨と使用内容をご理解の上、ご賛同いただける場合は、ご登録をお願いします。

YNU ネットアドレスサービスのご案内

詳しくはこちら www.ynu.ac.jp/about/project/netaddress/

本学と卒業生・修了生・退職者の皆様とのネットワークをつくるため、生涯にわたって利用できるメールアドレスをご提供する「YNU ネットアドレスサービス」を開始いたしました。

本サービスは、Yahoo! Japan が教育機関向けに無料で提供しているメールシステム「Yahoo! メール Academic Edition」を利用し、本学が公的に保有するドメインである「@ynu.jp」を付したメールの送受信を行えるものです。メールサーバ本体の運用管理は Yahoo! Japan が行いますが、利用者管理は本学側が行います。送受信は、主にウェブメールでのご利用となります。

YNU ネットアドレスサービスのご利用は、左記の「卒業生・修了生データ登録システム」よりお申し込みください。

登録方法

パソコン・携帯電話より下記ページにアクセスしてください。

詳しくはこちら 横浜国大ウェブサイト→「卒業生の方」→「卒業生・修了生データ登録」

<https://www.jmk.ynu.ac.jp/graduate/>

QRコードからも
アクセスできます→

